

福島第一原子力発電所の状況

平成 27年 3月 9日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (3/9 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	15.3 °C	4.4 kPa g	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.4 m ³ /h	20.8 °C	4.64 kPa g	A系： 0.04 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.01 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.4 m ³ /h	18.1 °C	0.22 kPa g	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 vol%

<2. 使用済燃料プールの状況> (3/9 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	13.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	27.3 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	21.9 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	8.4 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘドランジンの注入を適宜実施。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	3/2 10:25 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)	3/3 9:58 ~ 3/7 10:16 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (3/9 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運 転	水バランスを みて断続運 転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- ・H27/2/5 ~ 3号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。
- ・H27/2/14 ~ 4号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。
- ・H27/2/24 ~ 2号機海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を開始。
- ・H26/6/2 ~ 陸側遮水壁工事を開始。

・H27/3/6 9:00 頃 C排水路枝側溝内溜まり水で比較的高い全ベータ放射能濃度(1.9×10³Bq/L:採取日 3/3)の水が検出された件について、H4東エリアで行った現場調査の結果、同エリア内周堰(北西側)の配管保温材から水がにじんでいることを確認。その後、にじみ箇所の調査のため配管保温材を取り外したところ、配管貫通部(床面から高さ約 20cmの位置)から鉛筆芯1本程度の漏えいがあることを確認。配管貫通部からの漏えいを止めるため、パワープロベスター(バキューム車)によるH4東エリア堰内溜まり水の汲み上げを実施し、堰内水位を低下させたことにより、同日 10:18 に漏えいの停止を確認。その後、配管貫通部について、コーキング(止水剤)による止水処理を実施。配管貫通部から漏えいした水は、外周堰内の漏えい箇所付近に設置している溜め升(約 50cm×約 50cm)内に留まっており、溜め升の深さは目測で数cm程度。溜め升内の水の深さを 10cmと仮定して漏えい量を算出した結果、約 25 リットルと推定。3/5 に採取したH4東エリア内周堰内溜まり水の分析結果(全ベータ:1.6×10³Bq/L)から、漏えいした水の全ベータ放射エネルギーを評価した結果、約 4.0×10⁴Bqと推定。配管貫通部から漏えいした水は溜め升内に留まっていること、溜め升から当該側溝まで水の流れた形跡はないこと、当該側溝からC排水路につながる止水弁は 3/4 から「閉止」していたことから、C排水路への流出はない。また、配管貫通部からの漏えい確認後、H4東エリアの内周堰を確認したところ、当該の配管貫通部以外に漏えい等の異常はないことを確認。

3/5 にH6エリア内周堰内の溜まり水をH4東エリア内周堰内へ堰間移送を実施しており、移送後の堰内水位は約 17cmだったが、3/6 朝に監視カメラで堰内水位を確認したところ、H4東エリア内周堰内の水位が約 27cm まで上昇していることを確認。

3/5 の移送後にH4東エリア内周堰内の水位が上昇した原因を調査したところ、3/5 17:00 頃に移送ポンプによるH6エリア内周堰内からの移送は停止していたものの、移送ホースはそのままの状態であったことから、サイフォン現象によりH6エリア内周堰内の溜まり水がH4東エリア内周堰内に移送され続け、H4東エリア内周堰内の水位が上昇(H6エリア内周堰内の水位が低下)したことが判明。これにより、H4東エリア内周堰内の水位が約 27cm まで上昇し、配管貫通部(床面から高さ約 20cm)に対して水頭圧がかかったことで、漏えいに至ったものと推定。

なお、H4東エリア内周堰内の配管貫通部から漏えいした時期は、3/6 0:00 頃のタンクパトロールにおいて配管貫通部からの漏えいは確認されていないことから、それ以降に漏えいが発生したものと考えられ、C排水路枝側溝内溜まり水で比較的高い全ベータ放射能濃度が検出されたことの原因ではないと判断。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1~12 のサンプリングを継続実施中。
- ・地下水バイパス一時貯留タンクグループ1の当社および第三者機関による分析結果[採取日:2/24]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認。3/6 10:12、海洋への排水を開始。同日 10:16 に漏えい等の異常がないことを確認。同日 17:48 に排水を停止。排水停止状態に異常のないことを確認。排水量は 1,924m³。同日、この際の南放水口付近の海水についてサンプリングを実施。前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上